マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院

【ドーワの風景】
雨期が終わり、これから少しづつ乾季へと突入していきます。私の任地であるドーワの自然に囲まれた緑も、乾季が始まると少しづつ赤土の大地へと様変わりしていきます。この、のどかな田舎の風景はどことなく落ち着き与えてくれ、心を和ませてくれます。そんな緑がなくなるのは少し寂しい気もしますが、季節の変化というは時間の流れを感じさせてくれます。ドーワの風景、私は阿蘇山（大観峰）の風景に似ていると感じています。特に雨期には、緑の丘がどこまでも続き、熊本の懐かしさが蘇ってきます。

ドーワの風景（雨期）　標高約　1,400m

小高い山からの写真
立ち並ぶ民家

国道からの写真

【お風呂】水道が出ない日のお風呂は、井戸水を汲んできてペットボトルを使いお風呂に入っています。（ほとんど水道は出ません）当然、冷たい水なので寒いシーズンである今は、辛いものがあります。最低気温約５℃。夕方とは言え、暖房器具ゼロの室内は暖を取る方法も無く極寒に思えます。おそらく多くの隊員はお湯を沸かして使用しているようですが、私はとりあえず気合で乗り切っています（今のところ）。その為、お風呂の前には軽い運動をして体温を上げるようにしていますし、お湯を沸かす手間も省けて一石二鳥です。※皆さんはマネをしないでください。そして、たまに首都で浴びるホットシャワーには毎度感激させられます。はたして、日本のような湯船に浸かれたらどれだけ幸せなんだろう、、、

２ℓペットボトル

【会議】５Sをスタッフにしっかり理解してもらう為にも、ミーティングやワークショップを計画します。会議当日、1時間遅刻は良い方です。実際のところほとんどの人が出席しません。何度やっても人が集まる事はなかなか無く、戸惑いと焦りの繰り返しです。実はマラウイには変な風習があり、業務中の会議ですらアローワンス（お金などの見返り）が無ければ出席を嫌がるのです。しかも、最貧国であるマラウイには外国からのドナー（寄付やボランティア）が沢山入り、物やお金を毎回提供してくれます。一方JICAである私達にはそういった予算は無く体一つで任地で生活していますので、他の諸外国団体の様に会議に対してお金を費やすことが出来ません。こういった私の実情とは反対に、マラウイ人には「日本人なんだから金もってるだろ？お金をくれ」と思われています。残念ですが、これが現状です。ですので、自らスタッフの暇そうな時間を見計らって病棟に訪れ、スキンシップを計らい少人数づつ説明していくスタイルを取っています。今後は、なんとか病院の予算内でワークショップを開催し全体的な向上を狙いたいと思っています。

【後記】以前話した状況とは変わりますが、走り始める事となりました。今までの弊害も何とか克服し走り出してみると案外問題ありませんでした。毎日多くのギャラリーが「チャンチュン」と叫んできますので、一応日本人だと教えながら走っています。（笑）いつも子供達が大勢付いて来ますが、そんな子供達も凄く可愛いです。大人の人でも一緒に走りたいと申し出て来ますが、それはなんとなく受け流しています。まぁそのような事もあり最近街中では「昨日走ってたね」という声がけが多くなりました。赴任時、マラウイ人にからかわれるのを嫌って走る事を断念していましたが、いざ走ってみると、街の人との距離を近づくことが出来、良い事ばかりでした。

【鍵】マラウイの一般的なカギ、見めは非常に簡易的な作りに見えます。私の家の鍵はもちろん、病院のオフィスの鍵も写真のような鍵です。日本の様な精密な鍵ではありませんが、今のところ不自由なく使えております。ただ、鍵の開閉時にはガチャガチャと時間が掛かる事もあり、少しコツが必要かもしれません。ある日本の番組で、千原せいじが苦戦していたのをご存知な方も居るかもせれません。正直、この鍵だけでは不安なので二重ロックを心がけています。